

黒石市長

高 樋 憲 様

令和4年度

黒石市に対する要望事項

黒石商工会議所

# 令和4年度黒石市に対する要望

## 【最重点要望事項】

### 1. 黒石市内の個人病院におけるPCR検査・抗原検査体制の拡充について（新規）

身近に陽性者が発生し、濃厚接触に該当ではないが、家族へ感染させてしまうリスクを心配し感染しているかどうか急遽知りたい方、県外をまたぐ移動の際に陰性証明が必要となる方など、新型コロナウイルスがまん延し生活様式が大きく変化してきております。

現在、全額自己負担で実施する検査（いわゆる自費検査）を提供する検査機関が黒石にはありません。移動手段のない方などは、近隣市町村にある自費検査を提供する検査機関へ向かう際、公共交通機関を利用することとなり不安を感じております。

最近では厚生労働省で、体調が気になる場合に自宅などで自ら検査を行えるようにするため、新型コロナウイルスの抗原検査キットを、薬局での販売を特例的に認めました。このキットは適切な使用法などについて薬剤師の丁寧な情報提供や指導を受けた上で購入できますが、鼻腔ぬぐい液を採取する場合は奥までの挿入が必要とされ、正確な検出ができるかどうか不安に感じる方も多いと予想されます。

未曾有の災禍の中、少しでも安心して生活ができるよう、黒石市内の個人病院にPCR検査・抗原検査ができる環境の整備を要望します。

### 2. 統合校の通学路に係る徹底的な安全確保について（新規）

政府は千葉県八街市における、下校中の小学生の列にトラックが衝突し5名が死傷した事故を受け、通学路における交通安全の確保として飲酒運転の根絶を柱とする緊急対策を取りまとめ、全国約1万9,000校の公立小学校の通学路を対象に、これまでの危険箇所に加え、今回の事故現場のように、見通しの良い道路や、抜け道となっていて、車の速度が上がりやすい箇所などを追加し、9月末までを目途に点検を実施。その上で、速度規制や登下校時間帯に限った車両通行止めなどのソフト面の対策と、ガードレールなどの整備によるハード面の対策を組み合わせた効果的な対策を10月末までを目途に作成し、速やかに実施すると表明している。

本市においては、通学路安全推進会議を設置し「黒石市通学路交通安全プログラム」を策定し、平成31年に学校関係者が抽出した通学路の危険箇所について、学校（小学校）、PTA、教育委員会、道路管理者（市および県）、警察などの関係機関により緊急合同点検を行い、その対策案を取りまとめた対策箇所一覧表を公表しているが、令和2年4月小学校統合に伴い通学路の危険箇所が増加しており、これまで以上に通学路の徹底的な安全確保が求められている状況にあります。

近隣町村でも通学路のハード面での交通安全対策への取り組みが見受けられる中、統合により中弘南黒地区で最大規模の小学校がある当市に置いても、改めて関係機関等と連携し、通学路の危険箇所について早期に点検を実施していただき、危険箇所については早急な安全確保対策を要望します。また、平成31年度通学路の対策箇所一覧表に記してある、通学路の状況・危険内容について「検討中」又は「整備予定」等の回答があった対策内容について公表していただきたい。

## 【重点要望事項】

### ◆「福 祉」

#### 1. くろいし健康マイレージ（見直し及び内容充実）について （継続・一部変更）

「くろいし健康マイレージ」のポイント利用だけでは、協賛店からの周知がなかなか広まらない状況になっております。そこで希望する協賛店に対して、黒石市の各課で所有している備品（握力・血圧測定、室内ゴルフ・室内カーリング、足つぼを刺激する器具等）の貸し出しを要望します。それに伴い利用者に対してのマイレージポイント（1ポイント）を、協賛店から付与することを要望します。

内容充実を要望する理由として、協賛店への滞在時間が長くなることにより、まだ事業を知らない市民に対しての周知及び購買意欲の向上を目的としております。

## ◆「商工業振興」

### 2. 黒石ふるさと活性化応援補助金の新設について（新規）

新型コロナウイルス感染拡大は、ワクチン接種や人流の抑制の効果により全国的に収束傾向にあります。しかし変容した生活様式はすぐには戻りづらく、黒石市の事業者においてもコロナ対策と並行して、売上の回復を図りながら資金繰りを改善していく必要があります、これからが正念場と言えます。

今後新型コロナをきっかけに、自然災害や緊急時対策（略称：BCP計画）、代表者の代替わりをスムーズに行うための事業承継、消費者のニーズに応じ業種転換や新分野への進出（第二創業）のための事業再構築に取り組む事業者が増加すると予想されます。

商工会議所においても事業者の経営課題に対し、士業等の専門家による「経営相談会」や「補助事業の活用方法と取り組み事例」などを情報発信しております。しかし、新事業の発案や事業計画書作成は、事業者単独では難しく専門家の支援が不可欠です。更に新事業立ち上げ時には設備投資や広告宣伝費等の資金調達が必須であり、関係団体が共同で支援する必要があります。

つきましては、人口減少、活力あるまちづくり、消費行動の変化に対応するため、新たに事業の拡大に挑戦する黒石市内の事業者に対し、黒石市独自の支援策「黒石ふるさと活性化応援補助金」の新設を要望します。（下記に該当する事業者に20万円支給）

#### <認定及び推薦の該当内容（案）>

黒石市内に事業所がある個人事業主、黒石市に本店のある法人事業者で、下記事項のいずれかに該当する者。市税等の納付状況が良好な者。

1. 新規創業した事業者
2. 業種転換、新分野へ進出した事業者（本業売上比10%以上）
3. 事業承継した事業者
4. 事業継続計画（BCP）に取り組んだ事業者
5. その他認定支援機関である黒石商工会議所が推薦する事業者  
例) ①黒石ブランド開発（創出）企業  
②地産活用企業（年間売上1億円以上）  
③雇用創出企業（5名以上）

### 3. 便利で使いやすい市役所の実現に向けたワンストップサービスの構築について（継続）

現在、市役所本庁舎の耐震化対策として、市役所機能が5ヵ所に分散されている状況にあります。市民ニーズが多様化し、超高齢化社会を迎える中において、市民目線に立った“おもてなし”のサービスを、効果的かつ効率的に提供していくことが求められております。また、現在の窓口サービスにおいては、関連する手続きについて、複数の窓口を回る状況にあり、“行ったり来たり”する状況も発生していることから、市民に負担をさせないで、各窓口で行われている届出等の関連手続きを“1ヶ所”かつ“1回”で重複することなく手続きが完了できる「窓口ワンストップサービス」の確立が望まれております。

「黒石まちなかエアリアルノベーションプラン」の中で、現市役所庁舎の老朽化などの課題解決に向けて、旧大黒デパート跡地や現市役所庁舎の建設地等、庁舎再編を契機とした整備計画が盛り込まれています。市役所の窓口業務や福祉業務、子育て世代の支援、市民の交流スペース等を有する施設（(仮称)市民サービス施設）を整備するほか、各種施設の配置についても様々検討されていると思います。

つきましては、新庁舎における「窓口ワンストップサービス」の導入を要望します。

### 4. 黒石市制度融資保証料の増額について（継続）

黒石市制度融資は当該保証料を一定額、市が負担し中小企業者の資金繰りや経費負担の軽減に寄与しております。

今年度の制度融資の利用状況については、小口資金特別保証制度、事業活性化資金特別保証制度両制度の予算の消化率が合計で23.6%と、例年に比べて低い水準で推移しているのは、コロナ禍の影響で新型コロナウイルス感染症特別貸付制度の利用が多かったためだと予想されます。

しかし、本融資制度は例年上半期で予算に達してしまい、年度後半には保証料給付が受けられない中小企業者が出るなど、多くのニーズを有する制度のため、今後早い段階で予算に達する可能性があります。

よって、更なる利便性向上を図り1件でも多くの中小企業者が保証料給付を受けられるよう保証料給付の増額を要望します。

## ◆「都市環境」

### 5. 黒石市人口減少対策のための補助金創設について（再要望・一部変更）

当市の総人口は、昭和30年の41,607人をピークに減少へ転じ、令和3年8月末時点の人口は32,108人となり、ピーク時から比しおおよそ23%、前年同月比では約600人減少しており、人口減少に歯止めがかからない状況が続いています。

統計でみると人口が増加した市町村では、Iターン・Uターン移住の支援など安定的な雇用環境整備、空き家や公営住宅の提供や家賃補助といった住環境整備、加えて若年層増加のための子育て支援等の取組みが進められたことにより、人口の流入・定着が進み若い子育て世代の人口構成割合が高まったと考えられています。

当市の人口減少幅縮小のためには、所得水準の向上や暮らしやすさの向上に取組み、多様な就労環境、安心して子育てができる環境整備など長期的な観点から捉えることが重要と考えます。

近隣市町村では定住促進と人口増加を図るために移住者及び子育て世帯に対し、移住お試しハウスの提供、移住応援企業の認定、移住支援金、住宅新築・購入に係る費用の一部を補助する事業を展開しています。

また最近では、新型コロナウイルスを機に、働き方が変わり、都市部から地方への移住に関心を持つ人が増えています。テレワークなどが普及し、自分の生活を第一に住む場所や働き方を考えるという動きが広がっています。

人口減少問題への対策として、ウィズコロナで高まっている地方移住を希望している方に向けた補助金制度を創設していただくよう要望します。

### 6. 大鰐浪岡線の交通渋滞解消と黒石環状線の整備促進について（継続）

大鰐浪岡線は、大鰐町を起点とし、平川市・黒石市を経由して青森市と結ぶ重要路線である。近年、沿道の商業集積や通過交通の流入などによる交通量増加に伴い、慢性的に交通渋滞となっている。

この交通渋滞を解消するため、更なる拡幅工事と本路線東側バイパス路線を含む黒石環状線（都市計画3・4・7 巾16m 延長7,170m）の整備促進を図ることを引き続き要望します。

### 7. カラス対策について（継続・一部変更）

黒石市内の路上が、カラスの糞で汚れている箇所を多く見かけます。誰の目から見ても決して良いものではなく、黒石市の景観が損なわれていることが大変残念でなりません。デッキブラシの貸し出しはあるそうですが、なかなかきれいに汚れを落とせないという市民もおります。

そこで以前のように出来る範囲で定期的に巡回をして、高圧洗浄機等で清掃していただくよう要望します。併せてカラスの個体数及び動向調査についても要望します。

## ◆「観光振興」

### 8. サービス券付き市内飲食店パンフレットの作成について（新規）

コロナ禍において特に影響を受けた飲食業者はテイクアウトメニューの開発やおもり飲食店感染防止認証制度の申請、各種支援金や融資制度の活用など様々な経営努力を重ねて何とか事業を維持している状況です。

そんな中、全国的には令和3年9月30日をもって緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が終了し、社会経済活動の回復に向けた転換期を迎えています。

今後、国のGoToトラベルキャンペーンなどの再開、さらなる新規キャンペーンの開始に向けて、多くのお客様に安全・安心で魅力ある店舗であることをPRするため、それぞれの店舗でプレゼントや割引が受けられるお得なサービス券付き市内飲食店パンフレット（宿泊施設含む）の作成の支援を要望します。

### 9. 黒石市内の観光地における無料の公衆無線LANの設置について（継続・一部変更）

現在、黒石市内で観光地などの交流人口の多い場所（屋外）に、広域で公衆無線LANを常設しているところはありませんが、観光客等の利便性を高め、SNS等でどんどん黒石市の魅力を発信して頂く仕組みが必要であると考えます。

つきましては、地域外からの来訪者を増やすためにも黒石市内観光地等交流人口の多い中野もみじ山・金平成園などの観光施設や他の公共施設等への無料の公衆無線LANの設置、また弘南鉄道黒石駅、民間宿泊施設・会議施設への設置に対する補助を検討して下さるよう要望します。

## ◆「文化・教育振興」

### 10. 市民の運動機会増進のための運動施設環境の整備について（再要望・一部変更）

市民の健康づくりのためには運動機会を増やすことが重要であると思います。

現在、学校適正配置により廃校の空き施設が市内に数ヶ所あります。これらの施設は地域住民にとって大切な財産であり、効果的に再利用を図っていくことが必要だと考えられます。施設の維持管理に多額の費用が発生することが考えられますが、利用者負担で貸出しすることにより維持管理費の軽減を図り、空き施設の体育館や校庭を有効活用することを要望します。

また、黒石市運動公園等の利用期間が10月末までとなっておりますが、弘前市運動公園と同様に11月末までの利用期間の延長を要望します。

以上、令和4年度黒石市に対する要望事項として要望いたします。

令和3年11月19日

黒石商工会議所

会 頭 新 岡 常 雄